

press release

朝日新聞

朝日新聞社 〒104-8011 東京都中央区築地 5-3-2

〈報道関係のみなさま〉

朝日新聞社 デジタル広告の品質を認証する機構「JICDAQ」の 「品質認証事業者」認証を取得

株式会社朝日新聞社(代表取締役社長:中村史郎)が運営する「朝日新聞デジタル」(<https://www.asahi.com/>)をはじめとするデジタル媒体は、JICDAQ(一般社団法人デジタル広告品質認証機構)が定める第三者検証の認証基準に基づき、「ブランドセーフティ」(※1)と「無効トラフィック対策」(※2)の2分野において、「JICDAQ認証」(※3)を取得しました。



JICDAQは、デジタル広告の品質確保に関する取り組みを推進し、デジタル広告市場の健全な発展を目指す認証機構で、公益社団法人日本アドバイザーズ協会、一般社団法人日本広告業協会、一般社団法人日本インタラクティブ広告協会の広告関係3団体により、2021年3月に設立されました。インターネット広告の品質課題のうち、JICDAQは、「広告掲載先品質に伴うブランドセーフティの確保(明らかに違法・不当な広告掲載先の排除)」と「アドフラウドを含む無効トラフィックの除外(“人”に届いていない広告配信の排除)」を品質認証の対象としており、事業者の業務プロセスの有効性を検証し、一定の基準をクリアした事業者を公表しています。

朝日新聞社は広告掲載の品質や広告トラフィックの品質を確保するため、正確で信頼性が高い情報の発信に努める新聞社として、従来からブランドセーフティやアドフラウドが関わる課題に取り組んできました。こうした対応が認められ、今回「JICDAQ認証」の取得に至りました。

今後もユーザビリティ向上とデジタル広告業界の健全な発展のため、以下の項目について取り組んでまいります。

press release

朝日新聞

朝日新聞社 〒104-8011 東京都中央区築地 5-3-2

●ブランドセーフティの確保

正確で信頼性が高い情報の発信に努める新聞社として、広告主のブランドを棄損するページやコンテンツに表示されるリスクを回避し、安全性を確保します。

●アドフラウドの撲滅

自動化プログラム（Bot）を利用したり、スパムコンテンツを大量に生成したりすることで、インプレッションやクリックを稼ぎ、不正に広告収入を得る悪質な手法に厳正に対応します。

●高いビューアビリティ基準

広告掲載インプレッションのうち、実際にユーザーが閲覧できる状態にあったインプレッション（ビューアブルインプレッション）を指標とします。

●第三者によるメディアの検証と測定

上記項目を第三者のアドベリフィケーションにより検証、計測されたものを採用します。

（※1） 広告掲載先の品質確保による広告主ブランドの安全性のことをいう。

（※2） 広告配信の品質の観点で広告の成果の測定値に含めるべきではないトラフィックを検知し、最終的な広告配信後のレポートングにおいてインプレッション、クリック等の成果の測定値から除外することをいう。

（※3） JICDAQの「品質認証事業者」として認証

以上

〈JICDAQ（一般社団法人デジタル広告品質認証機構）について〉 <https://www.jicdaq.or.jp/>

デジタル広告が、生活者や企業、そして社会にとって有益であることを願い、デジタル広告市場が健全に発展することを目指して立ち上げた認証機構です。デジタル広告の品質課題のうち、まずは「広告掲載先品質に伴うブランドセーフティの確保」と「アドフラウドを含む無効配信の除外」の品質認証に取り組んでおります。